
ルイージは永遠の二番手か？

アリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ルイージは永遠の二番手か？

【Nコード】

N8129K

【作者名】

アリス

【あらすじ】

ルイージ「僕の栄光の日々をつづった最高の小説だよ！」

マリオ「ちげーだろ」

デイジー「あたしも違うと思う」

ピーチ「というかあんな緑の物体に栄光なんてあるのかしら？」

ルイージ「酷い！！」

一同「www」

ピノキオ「gggd فقط、よろしく！」

ニコ動 リア充 ggdgd

上の言葉の意味が分かる人は速効かもーん

分からない人もかもーん

よろしくです。

エピソード（前書き）

初めての小説です・・・。
拙い文章ですが、ヨロです。

ゆっくりしてっね！

エピソード

「はぁ・・・」

僕はルイージ。地味キャラの王と呼ばれている。

「おつかれ」

「乙でーすー!!」

「いや、今回の僕の演技はどうだったかい？」

「いやぁ、もう最高ですよ！マリオさん位です！

あのしなやかな走りと軽やかなジャンプは!!」

「そうか・・・」

畜生。あのくそリア充め。

「マリオさん!!私です！ピーチです!!」

「ああ、あのピンクの女か・・・。適当にあしらってくんね？」

うわ、ウゼえ!あんなのが僕の実の兄・・・!!

「ピーチさん!!今マリオさんは休憩中ですよ!」

「きゃー!!まりおさぁぁん!!」

何で皆僕よりコイツの方が好きなんだ?しかもピーチまでも!!

あんな赤いデブった物体より僕が良いに決まってるのに! (多分)

リア充爆破しろ!

このゲームキャラの業界ではマリオが圧倒的な地位とリア充の名を

欲しいがままにしている。そして悔しい事に僕の実の兄だ。

僕?僕はいえ

「ピーチ」

「何よ?何か用でもあるわけ？」

うわぁ、態度が違う・・・。いや、ピーチは

ツンデレ!!ツンデレなんだ!という事は僕の好きなタ(r y

「その、あの、ぼっ僕がつくったクッキー食べ」

「いらぬ。アンタみたいな地味男のクッキーなんか

誰が食べると思うの？ふん。マリオ様の方がよっぽど、よっぽっぽど良いわ！」

僕がさしだしたクッキーはピーチが平手で吹っ飛ばした。

良くラッピングされたその箱は弧を描き落下し、地面に叩きつけられた。

これは酷い……。僕はピーチと話した経験値として

『どうしようもない虚無感』を手に入れたようだ。

「この虚無感をミクさんに癒してもらわないと……ぐすん……」

そして僕はウォークマンを取り出した。

「ピッ……う……う……」

「もう行き場が無いわ　この恋の熱量——」
すーっ、

あー

「アアアアアアアアアアアア！！！」

僕は撮影所の隅っこで思いっきり叫んだ。

こういう時はやっぱりミクたんの『恋は戦争』に限る。

「おい・・・」

「はいー色のお雲っ！モノクーロオのーけえんっそーおー！！」

「おい！！ルー！！！」

「次は・・・わーたしはあ歌うのが好きっ」

「おい！！戻ってこい！！ルイージ」

「すーやすーやあー！！！」

「おいゴルア!!!!」

僕の耳からヘッドホンが無くなった。殺気を感じ後ろを見ると、

「兄さん……！」

「お前はほんとに、モテないしオタクだし地味だな。」

「言わないで・・・」

そう。僕は非リア充でヲタでネクラな最悪なヤシなのだ。

「お前なんかピーチに似合わねえ。諦めろ」

「諦めない！！」

「だってあいつ俺への執着心すげえぞ？」

この前なんて俺のパンツ全部奪ってた。だから俺は今ノーパンだ！
しかも一週間」

「せめてコンビニで買いなよ・・・」

兄さんがノーパンなんて全然気がつかなかった・・・無念。

「ま、とにかくだ」

「何だよ!？」

「ピーチは諦めるこつたな」

「ノーパンのくせに偉そうな事言っなよ!！」

「お前なんか昨日ニコ動で釣りに引っかつたくせに」

「くっ・・・」

「じゃあな」

兄さんは僕に背を向けた。その姿はどうしようもなく、格好良かった。

「チクシヨ・・・なんだよ！兄さんだって、兄さんだって・・・
うう・・・兄さんの悪いトコなんて・・・あるのか？」

大体ニコ動という言葉は僕が教えた言葉だ。その時は僕は自信に満ち溢れ解説してやったが

あの時兄さんは笑っていた。いや、『嘲笑っていた』。

最悪。自己嫌悪の渦の中にはまってきた。ヤバい。

「僕なんて・・・最低で・・・最悪な・・・」

その時、だった。

「ルイージ君」

声がした。後ろを振り向くと。

「キノコどチビ野郎・・・?」

「その言われ方は心外だな。ピノキオI-147型と呼ばたまえ」

「知らないよ!」

「というか何だI-147型って・・・」

「まあ、低能な言い争いはやめて。どうだ？俺と——取引しないか？」

僕はその言葉が救世主に思えた。
「・・・取引・・・だと!？」

登場人物紹介

登場人物紹介

ルイーダ

永遠の二番手。この小説の主人公。実の兄マリオにかなりの劣等感を抱いている。極度の影の薄さと臆病を持ち合わせている。オムライスが好きらしい。

老人の荷物を持ってあげた時言われた「ありがとう」が生きがいという

哀しく実は優しい人間。だがかなりのヲタでネクラなのが残念。ちなみにピーチに叶わない片想い中。

マリオ

最強のリア充兼ゲーム界の王様。ピーチにストーカーされている。最近諸事情によりノーマンであるがハマりつつあるらしい。

ルイーダの事を軽く見ている。医者に『ギリギリアウトのメタボ』と言われ、軽く一週間寝込んだとの噂。だが、最高にモテまくる。

ピーチ

ゲーム界の女王。好き嫌いが激しく、マリオの事は『王子様』

と思っており、ルイーダの事は『その辺にある石ころ』としか思っていない。

チビマリオマシンから「ピーチおばさん」と言われ最近不機嫌げみ。基本的な性格はぶりっ子、お嬢様な感じ。

デイジー

ルイーダの数少ない女友達。というかデイジーしかない。

ピーチの事を思いつきり敵視している。さばさばした性格。
今回の修行を手伝ってくれる。

ピノキオE-147型

謎の男。全てが不明。よって書きようがない。

分かるのは『ルイージに取引を持ちかけた』事ぐらい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8129k/>

ルイージは永遠の二番手か？

2010年10月15日19時41分発行